

# 2004年度 事業報告書

## 目 次

1	概 要	1
(ア)	調査から浮かび上がった特徴	1
(イ)	トラスト地の整備	2
(ウ)	可能性を探るために	2
2	組織	3
(ア)	会員状況	3
(イ)	役員等	3
3	会議	3
(ア)	理事会	3
(イ)	評議員会	3
4	各事業報告	3
(ア)	トラスト活動	3
(イ)	自然環境調査	4
(ウ)	森林維持管理整備	7
(エ)	自然環境の復元や保全活動を担う人材育成事業	9
(オ)	ボランティア参加による保全育成調査活動の推進	10
(カ)	ウェールズ・アフアン森林公園との森林文化国際交流事業	10
(キ)	5センス事業	11
(ク)	普及事業	11
(ケ)	その他の事業	11
5	中長期計画	12
6	今後の課題	12
(ア)	トラスト活動	12
(イ)	自然環境調査	12
(ウ)	森林維持管理整備	13
(エ)	その他	13



財団法人 C. W. ニコル・アフアンの森財団

※本報告書には公表できない写真、内容が含まれております。他部署への回覧、転載等ご遠慮下さい。

## 1 概要

当財団の活動は、現理事長である C.W. ニコル氏が 1986 年より飯縄山麓に位置する 30 年以上放置された里山（長野県上水内郡信濃町）を少しずつ買い取りはじめたことが始まりです。その第一歩はわずか 0.2 ヘクタールほどの土地からでした。その後 17 年間少しずつ買い取り、財団設立時には約 10 ヘクタールとなりました。その後多くの皆様のご協力をいただき、森を分断していた部分を昨年ほぼ買い取ることができ、現在では約 13 ヘクタールに広がりました。

分断していた森からひとかたまりの森としてある程度の面積を確保できたことは、生態系を保全するうえで最も重要であり、保全する面積が大きければ大きいほど多様な生物の生息場所を維持することにつながります。

大きくなったアフアの森で、次の指針に基づいたより豊かな森をめざした活動をおこなっていきます。

### アフアの森・天然林復元の 3 つ指針

#### 1. Diversity

生物の多様性の向上：あらゆる生命が暮らせる森づくりを行う。

#### 2. Productivity

生産性の向上：森林の生産性を最大限発揮できる状態に保つ。

#### 3. Balance

バランス：生物多様性と生産性のバランスを含め、人為と自然のバランスを考える。

この指針を基に森づくりの目指すべき目標地点は、自然の遷移にあわせながら、優先的に成長を促す樹木の選定や天然更新しやすい環境を促す整備をし、約 30 から 40 年後のある程度安定した森を目標値としています。種の多様性ならびに二酸化炭素の吸収なども含めた生産性が最も高い森林の状態を維持し、それ以上の遷移はある程度くい止めていくような管理を目指しています。

こうした天然林の復元には、何よりもその土地の基盤にあった森づくりを実施しすることが大切です。今年度は、短期計画として位置づけた基礎的な調査を中心に行っていました。まずは「森を知る」ための準備を進めています。

### (ア)調査から浮かび上がった特徴

前年度の森づくり委員会を踏まえての植生調査によってアフアの森の森林構造が明らかになり【別紙 資料 18】、今年度は植生図が作成されました。

これまでの調査から、次のようなアフアの森の特徴が浮かびあがりました。

#### ① 多様な土壌と植生

アフアの森は、森としては狭いにも関わらず、褐色森林土、適潤性黒色土、弱湿性黒色土、低地泥炭地、と乾燥した土地から徐々に水分が多い土壌段階が見られ、ピート層といわれる泥炭まで幅広い土壌環境を有しています。この土壌環境に付随した植生がひろがり、コナラ林、オオヤマザクラ林、ハルニレ林、オニグルミ林、ヤチダモ林など、多彩な植生によって成り立っています。特に、泥炭地は、泥炭層が深さ 3 メートル以上あり、その上に大きな木が育っていることも、森として大変貴重なエリアであることが分かりました。

#### ② 健全な里山環境

いままでの調査から、リストアップされた種数は次のとおりです。

植物種：343 種

(フロラ調査 1 年目のデータ。推定 500 種以上。)

鳥類：66 種

キノコ：301 種（予備調査。推定約 600 種。)

植物種に関しては長野県レッドリストに掲載されている 3 種類、ナニワズ(ジンチョウゲ科)：絶滅危惧 IB、ホトトギス(ユリ科)：準絶滅危惧、

ギンラン(ラン科)：準絶滅危惧、の生息が確認されました。これらの植物の絶滅原因は、森林が放置され、林床に光がとどかないことが大きな要因とされています。アフアの森では、再生のための管理の結果こうした絶滅危惧種が生息できる環境が整いつつあると考えられます。

一般に、森林を生活の場としている鳥類の種数や個体数は、森林面積に比例して増大することや、森林の樹種構成や階層構造に偏りが少ない程多様である傾向があることが知られています。検討段階ではありますが、確認できた鳥類の種数は周辺地域に比べ多いと考えられます。また、長野県レッドリストに掲載されている種は 10 種（絶滅危惧Ⅱ類：6 種、準絶滅危惧：4 種）確認されました。

菌類に関しても、予備調査ながら多くの種が確認でき、環境悪化でヌメリガサ科、キシメジ科、フウセンタケ科等のきのこが減少しているとの話を聞くことがありますが、アフアの森では多く確認されています。微生物学的な観点からも、昔ながらの里山の環境が維持されていると推測できる可能性があります。

また、過去3年にわたりフクロウが巣箱に営巣し、合計7羽のヒナがアフアの森から巣立ちました。生態系の上位に位置するフクロウの繁殖を支える多くの生物が生息している森ということが言えます。

このように森の維持活動の成果が、まだまだ推定の段階ではありますが、明らかになってまいりました。

## (イ)トラスト地の整備

この森の特性を生かしながら、より多様性や生産性を向上させるために最終トラスト地を大きく整備いたしました。その整備内容や維持管理方法についても、動植物のモニタリングを行いながら、検証しています。

## (ウ)可能性を探るために

また、さらなる展開として、森林環境が人体に対して与える影響について検証するための事業も平行して実施しております。「森の再生」を永続させるには、子どもの「心の再生」なくしては、ありえません。本年度は、盲学校のこどもたちや心に傷を負った児童養護施設のこどもたちを森に招き、様々な調査で得られたデータをまとめたアフアの森フィールドノート教材として、アフアの森の特徴をいかした環境教育を実施しました。

## 2 組織

### (ア) 会員状況

	口数	金額
賛助会員	78 口	3,900,000 円
アフアン会員	534 口	2,670,000 円

### (イ) 役員等

(敬称略・順不同：2005 年 3 月現在)

#### 理事・監事・評議員

理事長	C.W.ニコル
専務理事	森田 いづみ
常務理事	松木 信義
理 事	大槻 幸一郎
	金子 与止男
	谷 達雄
	野口 理佐子
	高見 裕一
	林 秀剛
	山瀬 一裕
監 事	畠田 洋平
	吉田 寛
評議員	梅崎 義人
	大熊 孝
	狩野 誠
	関口 鉄夫
	瀬田 信哉
	武田 徹
	茅野 實
	星野 佳路
	前河 正昭
	前田 利彦
	横谷 幸

## 3 会議

### (ア) 理事会

- 日時 2004 年 6 月 1 日 (火)  
13 : 30 ~ 15 : 30
- 出席者数 総数 10 名 (内委任状 1 名、代理出席 1 名)
- 審議事項
  - 第 1 号議案-1 2003 年度事業報告 (案) について
  - 第 1 号議案-2 2003 年度会計報告 (案) について
  - 第 2 号議案 役員の新任・交代について
  - 第 3 号議案-1 2004 年度事業計画 (案) について
  - 第 3 号議案-2 2004 年度収支予算 (案) について
  - 第 4 号議案-1 賛助会員規定要項 (案) について
  - 第 4 号議案-2 トラスト募金 (特別会計) 要項 (案) について

### (イ) 評議員会

- 日時 2004 年 6 月 1 日 (火)  
15 : 30 ~ 17 : 00
- 出席者数 総数 10 名 (内委任状 5 名、代理出席 1 名)
- 審議事項
  - 第 2 号議案 役員の新任・交代について
  - 第 3 号議案-1 2004 年度事業計画について
  - 第 3 号議案-2 2004 年度収支予算について

## 4 各事業報告

### (ア) トラスト活動

昨年度、森を分断していた主要な森は、トラスト終了しました。現在、アフアンの森内に残る約 1000 坪 (0.33ha) については、入手に向けて交渉を継続中です。

## (イ) 自然環境調査

今年度実施した調査および成果を一覧に示しました。(表4-①) また、各調査結果は別紙にまとめました。ここでは結果概要、結果から考察できる事項を記します。

### ① 植物類

植物では、植生図が作成され、また、アファンの森全域の植物種がリストアップされました。これまでに確認されたのは343種です。リストにあげられていない種の生息も十分に考えられ、調査者の感覚では最終的に600種に迫るのではないかとのことでした。

リストのうち長野県レッドリストに記載されている種は以下の3種でした。

ナニワズ(ジンチョウゲ科)：絶滅危惧 IB 類

ホトトギス(ユリ科)：準絶滅危惧

ギンラン(ラン科)：準絶滅危惧

これらは、いずれも森林が放置され、林床に光がとどかないことが絶滅危惧の大きな要因とされています。アファンの森では森林維持管理整備の結果こうした絶滅危惧種が確認されたのではないかと考えられます。

また、343種のうち10種類が、草本の外来種であり、人による踏圧が高い林道沿いに多くみられました。人が森に入ることへの影響が考えられ、今後もモニタリングを続けていきます。

継続調査として実施しているシードトラップにおいて堅果類(ドングリ)の生産量調査では、今年度は昨年度に比べ結実量が少なく、芽吹きが期待できるしっかりした果実の量は、昨年の約5%でした。

新規調査として、希少及び資源樹木計測、及び今年度植樹した苗木の計測を行いました。今後、継続し生息状況のモニタリングを行う予定です。

## ② 動物類

フクロウは今年度も巣箱を利用し、2羽のヒナが巣立ちました。CCDカメラを巣箱に設置し、産卵から巣立ちまでの映像記録を試みましたが、映像解析できる画質で記録することができませんでした。ペリットによる捕食個体数はネズミ類、ハタネズミ類、モグラ類合計で最低60個体の捕食が確認でき、他にカケス、サワガニの捕食も認められました。昨年の捕食個体数の約2倍でしたが、その根拠は不明です。

2003年夏季から2004年春季までの一年間、各季節で確認された鳥類種数の合計は66種でした。周辺地域よりも比較的多くの種が確認されていると思われませんが、検討の余地があります。リストのうち長野県レッドリストに掲載されている種は以下の10種でした。

オオタカ(タカ科)：絶滅危惧Ⅱ類(以下VU)

ハイタカ(タカ科)：VU

ノスリ(タカ科)：準絶滅危惧(以下NT)

フクロウ(フクロウ科)：NT

ヨタカ(ヨタカ科)：VU

ハリオアマツバメ(アマツバメ科)：NT

アカショウビン(カワセミ科)：VU

サンショウクイ(サンショウクイ科)：VU

サンコウチョウ(カササギヒタキ科)：VU

ノジコ(ホオジロ科)：NT

哺乳類では、自動撮影装置による定点観測を実施しました。7月にツキノワグマが一個体確認できるのみでした。今年度は人の入場が多いために人が撮影されることが多く、それに対しフィルム交換の頻度が少ないことによると思われま

す。新規調査として、国の天然記念物であるヤマネの調査を実施しました。アファンの森で冬眠期の目撃例はいくつかあるため、繁殖期のヤマネがアファンの森を利用しているか確認するために、巣箱を設置しその利用度を調べました。今年度の調査ではヤマネ、及びヤマネの巣材は確認できませんでした。

同じく、コウモリ類の利用確認のため巣箱を設

置しましたが、個体の確認はできませんでした。

甲虫類のトラップ等による捕獲調査では、12 種 304 個体が確認されました。

### ③ 菌 類

この3年間、アフアの森内のキノコを踏査により確認できたのは301種でした。予備的な調査段階ではあるものの、確認種数は多く、幅広い分類群のキノコが確認されました。今後調査を続けることで2倍の種数を確認することができると考えられます。近年、環境悪化でヌメリガサ科、キシメジ科、フウセンタケ科等のきのこが減少しているとの話を聞くことがありますが、アフアの森では、ヌメリガサ科5種、キシメジ科で60種、フウセンタケ科では24種、と多く確認されています。微生物学的な観点から良好な里山の環境が維持されていることを示すきっかけになりえる結果と思われま

### ④ その他

2004年8月に飛行機からの航空写真を撮影しました。植生図とあわせ、全域の樹木構成を表す資料であり、現状が確認できる説得力の高い資料となりました。【別紙 資料1】

### ⑤ 考 察

本年度の調査から、アフアの森の特徴として考察できる事項は以下のとおりです。

#### 地域独特の里山林が凝縮している

植生図からも見て取れるように、コナラ林（尾根地形に分布）とハルニレ・オニグルミ林（緩斜面、平坦地に分布）の2種の里山形態に大別されます。隣接する国有林（スギ人工林）を含めた3種の里山形態は、飯縄山麓（標高700m～1000m）の典型的里山林と考えられており、いわばアフア

の森は地域の里山林が凝縮されている森と言えます。

さらに、緩斜面、平坦地は土壌から3種に分けられ、特に泥炭層分布域（植生図中央のハルニレーヤチダモ林）は貴重な環境です。

このように、約13ヘクタールと森林環境としては狭い範囲に地域の特徴が密集している特殊環境であることが見えてきました。

#### フクロウが繁殖する豊かな森

フクロウは森林生態系の栄養段階の上位に位置する種で、森林の垂直構造が生息を左右することが知られています。アフアの森で3年連続繁殖が確認されていることは、アフアの森及びその周辺地域の生物が多様であり、適度な林内空間があることを表していると考えられます。

表 4-① 2004 年度自然環境調査項目

分類	調査項目	実施時期	概要
植物	アフアの森植生図 作成 【別紙 資料 2】	—	昨年度作成された地形図を基に、これまでに取られたデータより作成した。
	アフアの森植物リスト 作成 【別紙 資料 3】	—	途中段階であるが、これまでに確認された種をリストアップした。
	常設区樹木計測（継続調査）	7 月	立木の胸高直径を計測した。
	希少及び資源樹木計測（新規調査） 【別紙 資料 4】	7 月	胸高直径及び幹周を計測した。
	植樹苗計測（新規調査）	7 月	5 月に植樹した苗木の地際直径、樹高を計測した。
	堅果類生産量計測（継続調査） 【別紙 資料 5】	9 月 ～11 月	シードトラップを設置し、計測した。
動物	鳥類センサス（継続調査） 【別紙 資料 6】	5 月	センサスにより、種のリストアップを行った。
	鳥類巣箱調査（継続調査） 【別紙 資料 7】	—	常設の巣箱の利用状況を確認した。
	フクロウ営巣調査（継続調査） 【別紙 資料 8、9】	—	巣箱に CCD カメラを設置し映像解析、及び、巣箱に残されたペリットの分析を行った。
	ヤマネ巣箱調査（新規調査） 【別紙 資料 10】	8 月 ～12 月	巣箱を設置し、利用度を調べた。
	コウモリ巣箱調査（新規調査） 【別紙 資料 11】	7 月 ～11 月	巣箱を設置し、利用度を調べた。
	定点観測（継続調査）	—	自動撮影装置による観測。
	甲虫類トラップ調査（継続調査） 【別紙 資料 12】	7 月 ～10 月	樹木に設置した墜落缶トラップによる捕獲。
	ビオトープ創出検証サイトの整備 （新規調査）【別紙 資料 16】	9 月	巻き枯らしの施行および、菌類の菌打ち。
菌	キノコ調査（継続調査） 【別紙 資料 13】	10 月	踏査によるサンプリング。

## (ウ)森林維持管理整備

本年度の森林整備内容は、これまでどおり必要最低限の施行を実施しつつ、目立った内容は以下の3事項でした。その他主な作業内容は別紙にまとめました。【別紙 資料14】

- ① 2003年度トラスト完了地、およびその周辺への植樹
- ② 巻き枯らしの施行（ビオトープ創出検証モニタリングサイトの整備）
- ③ 弥生池の南西側に水路の造成

### ① トラスト完了地、及びその周辺への植樹

5月に、昨年度笹刈りや下草刈り、伐採を行った場所へ幼樹の植樹を行いました。アフアの森で育った実生苗および、地元地域の森林組合より購入した苗（いずれも地上長30～80cm）合計約560本を、ボランティアにお手伝いいただき植樹しました。樹種は以下の通りです。

移植樹種：コナラ、ブナ、トチ、ホオノキ、  
ハリギリ、キハダ、ヤマモミジ  
購入樹種：コナラ、クヌギ、ケヤキ、  
オオヤマザクラ、キハダ

トラスト完了地に植えた苗木は、7月上旬に地際直径および樹高の計測を行いました。今後、成長のモニタリングを実施していきます。【別紙資料15】



植樹前



植樹作業



植樹後

### ② 巻き枯らしの施行

里山に依存してきた昆虫の生息に必要な環境条件を創出し、かつ、省力的な里山管理の手法を構築する試案として、樹木に巻き枯らしを行い、キノコの植菌によって速やかに腐朽させ、クワガタムシ、カブトムシなどの樹液食甲虫類のビオトープを効率的に創出することができるかを検証するためのモニタリングサイトを、アフアの森内に整備しました。

合計14本の幹に巻き枯らしを実施しました。詳細は別紙に示しました。【別紙 資料16】



巻き枯らし作業



### ③ 弥生池の南西側に水路の造成

2004年9月1日から30日に弥生池南西側に大きく蛇行させた水路を造成しました。

昨年度実施された森作り委員会を受けて、以下にあげる理由から、植物の育ちやすい環境へ改変しようと造成にいたりしました。

- ニコル理事長、松木専務理事のこれまでの経験から、造成場所は樹木の生長には適さず、造成前がある樹木はやがて枯死することが予想できた。また、限られた植物の生育が予想され、他の動物（人間も含む）の利用頻度は少ないと予想された。
- いわゆるヤチ（水分を非常に多く含む土壌、湿地）であるが、なかでもこの場所は、土壌層の下に水を通さない岩盤があると予想され、廃水が悪く水が停滞し、根の酸欠を招いていると予想される。各所で根上がりが見られ、近年の生長は乏しく、土壌内が酸欠状態のであることが確認された。（造成開始後であるが、伐採したハルニレの切り株は、近年の年輪が読み取れないほど詰まっていた。）
- 造成地は植生図からみても、これまで積極的に整備を進めた地域と同じ植生である。

森林環境として整備するに当たって、土壌中の水分をどのように排水するかが主題となりました。これまでに造成した2箇所（池）の成功例があること、またアファンの森の中に水位に変化がある流域が存在しないことなどを踏まえ、新たな生物の生息環境の提供をねらい、大きく蛇行させた、水深の浅い水路としました。また、各蛇行箇所には溜まりを作りました。造成後、表土の流出防止のためシロツメクサ（省力的に短期間で地上部を覆うことが可能。土壌中の可給態窒素も増加する。）の種を散布しました。造成後、森林内の沢が流れている環境の林床を利用するセキレイ類を目視しました。

来年度、この水路の測量、および植林を予定し

ています。このような環境にどのような生物が生息、利用していくか、モニタリングをしていきます。



造成直前



造成中



造成中



造成完了

## (エ) 自然環境の復元や保全活動を担う 人材育成事業

里山の保全活動に関する人材を育成するための講座の開催。及び子供たちとともに森の不思議やすばらしさを共有する「森は生きているプロジェクト」を実施しました。

### ① 親子自然教室

7月24日～25日

(株)リコー社員の親子(小学生)が対象。森の中でいろいろな体験をしてもらいながら森と触れ合い「森は生きている」ことに気づいてもらうプロジェクトを行いました。また、今回初めて大人だけのプログラムも行いました。

#### ・内容

子供：カブトムシ調査隊・宝物探検

大人：森の散策・アートセラピー

親子：ナイトハイク・早朝ハイク・宝物探検

#### ・参加者

11組30名

### ② 森の教室

9月3日～5日

(株)リコー社員対象。リコー社内においては環境ボランティアリーダー養成プログラムの一環で行われるもので、里山保全などに普段関わっている方達のレベルアップが目的です。

#### ・内容

① 森林の自然環境を理解するための植生調査

高木・亜高木・低木・草本層の優先種、樹高(草丈)、茂り方などの調査。

② 森林復元のための基礎作業実習

巻き枯らし(特殊作業)の体験。

(下刈り、藪払い、択伐、の作業を予定していましたが雨天のため中止)

③ 森のミーティング

参加者毎に選択した森林に関するテーマを

グループ別に分かれて、どのような問題があるのか、自分達の関わり方を考えて話し合い、まとめの発表を行いました。



宝物探検隊



アートセラピー



植生調査



巻き枯らし



森の  
ミーティング

## (オ) ボランティア参加による保全育成 調査活動の推進

植林・調査・藪刈りなど、一般・協力企業ボランティア参加による作業を実施しました。【別紙資料16】

## (カ) ウェールズ・アファン森林 公園との森林文化国際交流事業

### ① リンゴ植樹

2005年1月30日

ウェールズ・アファン森林公園にて、イングラ種（イングランド種）のリンゴの植樹が行われ、財団理事長C.W.ニコルが参加しました。

地元在住の日本人自主ボランティア「ウッドペッカーズ」のメンバー30名と英国航空少年団のメンバーの15名が12品種、24本をセンター脇に植樹して鹿よけのフェンスも取り付けました。



鹿よけ  
フェンス

### ② ボランティア認証賞授与と 今後の姉妹森活動検討会

2005年2月6日

#### ① ボランティア認証証授与

森での基本的なマナーを見につけたボランティアとして、この日約20名のウッドペッカーズのメンバーがニースタルボット市長夫妻より認証証を受け取りました。

また授与式後、当財団理事長から「アファンの森の四季」「心の森プロジェクト」「癒しの森 地元行政の森林活用プロジェクト」「森

林の効用についての実証」について、報告を行いました。

#### ○参加者

- ・ アファンウッドペンカーズ
- ・ ニースタルボット市関係者市長他14名
- ・ アファン森林公園管轄営林署職員所長他2名
- ・ 広報
- ・ C.W.ニコル英国事務所代表2名
- ・ ロンドン日本大使館一等書記官1名
- ・ 財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団理事長



ボランティア  
認証証

#### ② 姉妹森活動の今後について

今後の姉妹森活動についての話し合いが行われました。主に話題にのぼり検討されたことは以下の3点です。

1. 今後のレンジャー交換の可能性について
2. 信濃町との姉妹町交流の示唆
3. 観光誘致作戦～黒姫アファン周辺についての説明

検討事項1については早急に具体性をあげることを課題に話し合われました。

#### ○参加者

- ・ ニースタルボット市関係者4名
- ・ アファン森林公園管轄営林署職員3名
- ・ アファン森林公園主任レンジャー
- ・ 広報
- ・ C.W.ニコル英国事務所代表2名
- ・ ロンドン大使館一等書記官
- ・ ウッドペッカーズ代表
- ・ 財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団理事長



## (キ)5 センス事業

5 センス事業としてアフアン 5 センスプロジェクトが実施されました。

自然環境に親しむことが、ストレスを軽減することは医学的にも証明されています。子どもたちが豊かな森で活動することで、どのような効果が見られるのか検証するために、今年度は児童養護施設の児童（2004年3月の活動を含め、2泊3日を4回、のべ72人）、及び盲学校の児童生徒（1泊2日を3回、のべ25人）をアフアンの森に招き、実施いたしました。

アフアンの森が大人たちの信念の下に成り立っていること、森の生き物が複雑に関係しあっているように、参加者一人一人が大切な存在であることが、アフアンの森でこそ伝えることのできることだと考え、活動しております。また、2月19日に5センス研究会を開き、1年間の活動報告や意見交換を行い今後の協力を求めました。

活動内容は別紙に示しました。【別紙 資料17】

## (ク)普及事業

従来のホームページ、パンフレットによる広報活動の他、今年度もテレビ、ラジオ、雑誌などの取材が多数ありました。1月21日には長野県が主催した東京でのシンポジウムに参加、アフアンの森の活動をポスター、写真パネルで紹介しました。会員向けの見学会も4月から11月までの期間、毎月一回実施し、アフアンの森の現状の理解を深めてもらいました。



長野県  
シンポジウム

## (ケ)その他の事業

### ① 絵本「森へいこうよ！」

長野県と共同で絵本「森へいこうよ！」を出版しました。アフアンの森を舞台に、森が生命を育んでいることや、森の大切さを伝えています。すべて実際にあった話です。売上金の一部は財団へご支援頂いています。



絵本  
森へいこうよ

### ② フィールドノート

アフアンの森の「フィールドノート」を作成しました。アフアンの森の紹介、代表的な動植物をわかりやすく解説しています。調査データなども載せ、中身が濃いものに仕上がっています。また、点字版も作成し5センスプロジェクトにて、教材として活用しました。



フィールドノート

## 5 中長期計画

中長期計画では、アファンの森がモデルケースとなり、多様性溢れる森を広げていく運動があります。その一つとして 2003 年からアファンの森に隣接する国有林（放置状態のスギ・カラマツ林）を、東京環境工科専門学校の生徒たちの体験活動・教育的利用の場所である「遊々の森」に設定を要請し、「山童の森」と名付け、当財団の指導により授業の一環として針広混交林へ変換する整備をはじめました。

2004 年度は、のべ 120 人の生徒が参加し、主に除伐作業が行われ、約 5 ヘクタールの放置されたスギ・カラマツ林に整備の手が入りました。

この「山童の森」は平成 17（2005）年度から 5 ヶ年計画として森林整備、自然観察等の活動の場として活用を図るために設定されていますので、今後も引き続き整備の手が入ります。アファンの森と隣接する「山童の森」が、針広混交林に育成されることは、アファンの森にとって、また霊仙寺山全体の生態系を考えていくうえでも重要な意味を持ちます。アファンの森、「山童の森」、霊仙寺山頂方面の天然広葉樹林と繋つながることができ、人工林によって分断されていた森林の生態系を復元するために大きく寄与すると考えられます。

## 6 今後の課題

中長期計画では、生態系の頂点であるツキノワグマと共生できる森づくりを一つの指標としています。しかし、アファンの森周辺に生息するツキノワグマの行動圏については、約 7 年前のデータがあるのみで、近年の状況は推測の域を出ておりません。個体に発信機を装着した追跡調査は、周辺の狩猟事情を考慮しツキノワグマ保護の観点から行われておりませんでした。しかし、2004 年夏季の人身事故等により追跡調査実施の必要性が考えられています。当財団では行政や研究機関、狩猟団体、地元住民等より情報収集、調整を図る等、ツキノワグマと共生できる森づくりをテーマに、今後も各方面に働きかけていきます。

また、周辺地域へ多様性の高い森を広げるためのモデルケースという位置づけから、理念や哲学等、考え方に加え、より具体的な視点や整備手法を示すためにも、短期計画でアファンの森そのものの着実な保全活動が求められると考えています。短期計画について今後の課題を以下に示しました。

### (ア) トラスト活動

アファンの森は森林としては小さい面積です。アファンの森内に残る、実取得地については今後交渉を続けるとともに、国有林との関係を考慮しながら隣接地域へ面積を広げることを検討しています。ただし、土地取得後の保全まで考慮した検討が必要であると考えております。

### (イ) 自然環境調査

地道に継続し、データを蓄積していくことが基本となりますが、これまでのデータを重ね合わせ解析するために、GIS の導入を検討しています。

環境教育事業実施等により、入場者数が増加したことに伴い、人の森に与える影響についても調査の必要性を感じており、検討中です。

また、自然環境調査におけるより実質的な基本方針の検討が必要であると考えております。

### (ウ)森林維持管理整備

現在のアフアの森では、来年度以降大きく手を入れる場所はなくなり、より管理的整備が主体となると考えられます。

自然環境調査データの解析作業に伴い、具体的なアフアの森の保全計画を検討していきたいと考えております。GISの導入が、この保全計画の可視化にも利用できると考えております。

### (エ)その他

「森の再生から心の再生へ」をテーマに、アフア5センスプロジェクトは今後も実施してまいります。

また、多様性豊かで健全な森の存在意義や、そのような森が人の生活を支えている実情、を普及啓発することを目指し、自然環境調査で得られたデータや森林維持管理整備で起こった出来事等、机上ではなく現場から発信された生の情報を利用した環境教育、普及啓発活動等の実践につなげたいと考えております。